

中京区基本計画検討ワーキンググループ 第4回会議開催報告

■「中京区基本計画検討ワーキンググループ」第4回会議を開催しました！

12月17日に「中京区基本計画検討ワーキンググループ」の第4回会議を中京区役所で開催しました。当日は、第3回会議で議論したテーマごとの「まちづくり戦略」について、グループワークを行いながら議論しました。主な意見については以下のとおりです。

◎当日の主な意見

【柔軟で開かれた地域組織づくり】

- ・ 町内会の加入率を高めるには、加入する意義を積極的に発信する必要がある。
- ・ 大学との連携協力を進めるうえで、地域も学生の受入態勢を整えていくことが重要である。
- ・ マンションにも地域活動の重要性を訴えていくには、災害時の対応などが分かりやすい。
- ・ 子どもや若者も地域活動に関わりやすい仕組みがあると良い。

【誰もが互いに認め合い、支え合えるコミュニティづくり】

- ・ 公的支援・サービスに「つなぐ」ことも含め、地域の中でお互いに助け合えるコミュニティをつくっていくことが大切だ。
- ・ 既存の支援者間の連携を深めることとあわせて、大学、企業、NPOなど多様な主体との連携を促進していくことが重要である。
- ・ 将来の担い手を育成するには、子どもや若者も含めた次の世代が、当事者と出会い、課題に気づく機会をつくっていくことが必要になる。

【地域ぐるみでの子育て環境の充実】

- ・ 地域みんなで子育て世帯を応援する姿勢が求められている。
- ・ 不妊症や不育症に悩む人向けの支援を充実していくべきだ。
- ・ 虐待を防止するには、地域のつながりや支え合いが欠かせない。
- ・ 子育ての悩みなどをSNSで気軽に相談できる窓口があると便利である。



裏面に続きます ⇒

◎当日の主な意見（続き）

【地域ごとの歴史文化を活かした個性あるまちづくり】

- ・ 京町家や通りが織りなす景観を「地域の宝」として残していく必要がある。
- ・ 子どもや学生が地域の祭りや伝統行事に、積極的に参加できる仕組みが必要だ。
- ・ 地域の地蔵盆を次の世代にも残していきたい。

【商い・ものづくり・学問のつながりが生み出すにぎわいづくり】

- ・ 市民公開講座など、最近は大学が行う地域向けの取組も充実してきているので、連携を深めていけばよい。
- ・ 地域企業は重要なまちづくりの担い手である。地域内で雇用を確保していく点からも連携していくことが必要である。
- ・ 中京区では地域団体に加え、企業や大学の活動も活発である。様々な主体を集め、一緒に議論できる場を用意すれば、地域課題の解決につながる。

【安心・安全に住み続けられるまちづくり】

- ・ 顔の見える関係づくりが、安心・安全な地域づくりの第一歩となる。
- ・ 自転車のルール・マナーの周知・啓発をより強化するべきだ。
- ・ 地域と交流することで、民泊事業者が地域への理解を深めるきっかけになる。

【持続可能なライフスタイルの継承・発展】

- ・ ごみの削減には、消費者だけではなく、生産から販売、あらゆる段階で意識改革が求められている。
- ・ 「リペアカフェ」など、修理しながら物を大事に使うことを支援する仕組みも重要だ。
- ・ 不要になった子ども用品などを交換できるイベントをもっと充実させるべきだ。
- ・ エコライフの実践を促すには広報にも積極的に取り組むべきである。

